

8月12日の教育委員会・傍聴者の感想(直接審議の部屋に入った人)

(教員)

あれは教育委員会の話あいではないなという感じだった。

自分の思いをぶつけるだけで、議論をしようとする議論させない。

あれが教委かと思うと、驚く。

傍聴していても、井出氏の話は聞こえない。自信のなさが見て取れた。

最初の井出氏の発言に全てが集約されていた。

大蔵氏は調査報告書に(否定的意見は)上がってきていないといていたが、

あれはウソだ。実際確認してみると、否定的な内容もあり、扶桑社の良いところだけを拾っているにすぎない。

(民団関係者)

まず、会議室はまるでお通やにしているような暗い感じだった。

手続きだけ見せているという感じで、決まったことをやる手続きだけ。

集団的にものを進めていくという体制ができていない。

全くひらかれていない！

大橋氏は、自分で話していることが自分でわかっていないようだった。

とにかく、のがれようとしている雰囲気だけがあった。

(主婦)

教育長がずっと傍聴者に背中をむけている。区民の顔が見れないんだなと思った。

大橋氏は言わされているという感じだった。

(キリスト教会関係者)

一個人として、大蔵氏への感想。 - この人、ほんとうに人の目が見れない人だなと思った。

それでいて、困った時は怒る。記者が写真を撮る時だけ前を向いて、他は横を向いている。

宮坂氏は、扶桑社、自由社が大好き。大橋氏と井出氏は消極的賛成。でも自信のなさや声の小ささ、意味不明の発言に現れていた。安本さんだけが、最後まで(教育委員として)責任をとろうとした毅然とした姿勢がみてとれた。全体として、このような人たちにお任せして本当に良いのか？という気持ちだけが残った。

(元保護者)

おおむね皆さんの発言と同じ。大蔵氏は、ひたすら安本さんの意見を封じることだけに力を注いでいた感じ。一人ひとりの意見を自由に言わせないのが今の教育委員会だなと感じた。宮坂氏は「歴史の見方は一人ひとり違う。歴史観にはいろいろある」といていたが、

これは、基本的事実を踏まえての話。歴史事実に立脚しない歴史「感」などはない。「つくる会」の目だった動員がないにも関わらず、いとも簡単に通ってしまう。このことは、権力の中枢にいか「つくる会」派が食い込んでいるかを示す。真の公共性とはなにか。教育委員はじめ行政は公共的立場を守ってほしい。

.....

= 8月12日の夜の報告集会での講師：石山久男さんの指摘 =

- ・粗製乱造教科書をなぜこんなに造るのか？ - 2年後の採択をねらっているため
- ・およそこの粗製乱造教科書は普通に考えれば採択されるはずがないもの。しかし、横浜市や杉並区のように、首長が断固たる信念をもって、それと一体となって教育委員会が動くという異常な状況が作り出されたとき、この教科書採択が可能になる。政治的な動きのなかで、採決されるということを受け止めなければならない。そういう点で、私たちもまさに政治的な対応が求められている。